

# ヘーゲル『大論理学』様相論の再検討

## ——九鬼と入不二哲学を手がかりに——

山田 有希子（東京女子大学）

本発表では、ヘーゲル『大論理学』における様相論を改めて考察する。その際、九鬼周造の偶然論と入不二基義氏の「様相のつぶれ」論を手がかりに、ヘーゲルにおける偶然性と必然性の特有の関係に新たな光を当てることを目指す。とくに、現実性・可能性・必然性・偶然性という様相論の諸概念が、最終的に「絶対的必然性 (absolute Notwendigkeit)」へ包摂されるという論理構造の意味を、できるだけ明快に示すことを試みる。また、経験的・日常的な次元で語られる偶然性に対し、存在論・形而上学的次元におけるヘーゲル論理学の様相論を、悟性（常識的理解）と理性（哲学的理解）の対比から再検討する。以上を通じ、これまでの議論に補助線を引くかたちで再考を試み、その理解をより深めるための視角を提示したい。